独立混成第七二旅団砲兵隊

陸軍大尉 和田和久次

年月日	概要
昭一九・一一・四	編成下令、軍令陸甲第一五〇号に依り、独立混成第七二旅団砲兵隊
一二・七	緬甸国「エナシシャン」に於て、編成完結
自 一二・二七	一号作戦 「エナンジャン」附近警備
至 四・二三	「完」二号作戦
	参加戦斗
	「セクピュー」附近戦斗 戦死将校× 下士官× 兵二
	「ミランビヤ」 〃 〃 2 2 〃三
	「テトマ」 〃 〃 × × 〃一
	「チョーク」 〃 〃 3 3 〃八
	将校 〃 〃
	計 五 五 四二
七・五	威状授与「ミランビヤ」「チョーク」の戦斗に対し、第二八軍司令官より授与さる
	戦病死将校 一
四・一八 七・一〇	「遮一号作戦」 「チョーク」より転進命令に依り、「イラワヂ」河右岸を南下し、「ミヤナング」より再渡河英軍占領地域を突破、ペグ山脈に集結す

2125

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	戦死一九　戦病死一五　生死不明三四
	ペグ山脈「ポニオ」より英軍占領地域の突破
	シッタン河を渡河し「ビリン」に至る。戦死二九　戦病死三七　生死不明一六
昭二〇・八・一五	大東亜戦終了
八・二〇	「ビリン」着　「モールメン」に集結を命ぜらる
八・二二	「モールメン」着
	「タンビザヤ」地区に集結を命ぜらる
八・一六	「タンビザヤ」集結
	賀徹兵団主力に合す
自八・一七 至一〇・二〇	終戦処理「タンビサヤ」地区へ「パンセン」―「カンラン」―「ニッパー」)
	に於て、終戦処理業務に従事す
一〇・八	武装解除式挙行
一〇・一五	「モールメン」に移動
自一〇・一五 至六・二〇	終戦処理
	「モールメン」に於て、労役に服す
六・二五	乗船
	「モールメン」桟橋より復員の為、乗船
七・二	上陸
	広島県大竹に上陸

2126

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

其の他ビルマ

年月日	概要
昭二二 七、一四	復員完結

-419-

2127

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立混成第七二旅団工兵隊

年月日	概要
昭一九、一二、一〇	緬甸国マグエ管区、エナンジョン県「エナンジョン」に於て、編成並に、「エナンジョン」「チョーク」「ミクランビヤ」附近の戦斗に参加 戦死兵 二、　戦病死兵 一
自三、二八 至四、二七	「完」二号作戦の戦斗に参加 「ミイラビヤ」「タイトミョウ」「キャッピュー」に附近の戦斗に参加 戦死 二　下士官兵二と　行方不明兵 一
四、八	「遭」作戦（エキンジョン）及び（チョーク）より転進）に参加、ビルマ「ウクガン」に転進す 戦死 二、　下士官兵 五、　兵 三九　戦病北兵 六 行方不明 一　下士官兵二　兵 四九 其の他終戦後 兵三（戦病死）
自二〇、八、一五 至二一、六、二五	「モールメン」に於て、英軍側要求による労
六、二六 七、三	内地帰還の為、輸送（大竹に上陸）
七、四	復員完結

～4420～

2128

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立混成第七二旅団通信隊

年月日	概要
昭一九、三、一七	緬甸国マグエ管区「エナンジョン」県「エナンジョン」に於て、編成、並に「エナンジョン」「ケョーク」「ミイランビヤ」附近に於ける「完」作戦に於て、通信連絡に従事す
自 三、八 至 四、七	緬甸国「ミイランビヤ」「セイプピュー」「ニトマ」附近に於ける、「完」二号作戦に於て、通信連絡に従事す 戦死兵　一
八、四	「邁」作戦（「エナンジョン」及び「ケョーク」の転進作戦）に参加、ビルマ「ウロガ」に転進す 戦死将校一　下士官兵二　兵　一八 戦病死　下士官兵二　兵　八 生死不明　将校一　下士官兵二、　兵　二〇
二〇、八、一五 二一、六、二五	「モールメン」に於て、英軍側要求による労務に従事
二一、六、二六	内地帰還の為の輸送（大竹に上陸）
七、四	復員完結

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第三三軍司令部

年月日	概要
昭一九、四、一九	「ラングーン」に於て、軍令陸甲第三八号に依り、第三三軍司令部の編成に着手し、
四、二九	織編成完結 八号並に遠征軍反撃作戦 編成を完結し、直ちに、司令部を明妙に移動し、八号並に遠征軍反撃作戦の指導に任ず 断作戦 第一期 軍は逐次逼迫する各戦場の戦斗指導を適切ならしむる為、先づ
八、五	北シャン州「センウイ」に推進 八号作戦方面は、第一五軍の戦斗地境内に編入せしめられ
八、一四	怒江正面戦斗指導の為、戦斗指令所を雲南県、芒市に推進し、龍陵附近戦斗指導の為、同地、南方拔台高地に戦斗指揮所
九、一四	平戛守備隊救出作戦指導の為、芒市飯還本作戦間の死殁者兵一 第二期

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

45の内ビルマ

年月日	概要
昭一九、一〇、上旬	持久態勢の強化を企画し、戦線を逐次、整理収縮し、全般作戦指導の為「モンユ」に移動す
一一、中旬	「バーモ」作戦指導の為、指揮所を残置し、「ラシオ」に移動
一二、中旬	同指揮所を撤収す 本作戦の死歿者兵一 第三期 次で、軍は、次期作戦準備の為、戦線を整理し「ラシオ」「ナンパッカ」「モンミット」附近の線に収縮し、同地附近の作戦を指導す
二、二	「シポー」に転進す、 本作戦間の死歿者、下士官 二 完作戦
三、三	時恰かも「イラハヂ」河畔の会戦は彼我戦斗熾烈を極める折「メークテーラ」附近に侵入せる連合軍の処理を命ぜらるや所在部隊（へ五六〇基幹）を方面軍の直轄たらしめ、先づ、戦斗指揮所を中部緬甸「サヂ」附近に推進す 第一八師団、第四九師団、其の他を指揮下に入らしめられ、同地附近の全般作戦を指導す。次で、第一五軍正面危急に瀕するや、来攻する連合軍に、猛攻を加え、其の転進を援護す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二〇 四、下旬	方面軍の企画に基き「トングー」を経「シッタン」河東方地区に転進を完了 本作戦間の死殁者 将校 五 下士官 三二 兵 三 軍属 四 計 四四
五、中旬	シッタン作戦 「シッタン」河東側地区に集結せる軍は、第八師団、第五三師団を「シッタン」河畔に第三一師団を「タトン」「パアン」「マルタバン」附近に配置し、「テナセリウム」地区に於ける次期作戦を準備方面軍企画に基き「ペグー」山系内にありたる第二八軍の「テナセリウム」地区への転進援護のため「シッタン」河畔に陽動作戦を実施、救出す
七、八	「タトン」北側に次期作戦指導の為、移動
八、五	終戦となる 本作戦間の死殁者 将校 四 下士官 一八 兵 二 計 二四
八、六	終戦後の行動 緬甸国「タトン」県「ゼマトウヴェ」に移動
二一、二、二二	〃 「ペグー」県「パヤジ」に移動
三、九	〃 「ミンガラドン」に移動

-ｱ24-

2132

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二一 四・二二	南部緬甸行政司令部を編成 「ラングーン」に位置し、復員事務の促進に任す
七・一〇	復員 先発二三名、司令部復員者五〇名、宇品港入港 先発隊一二名を残置、復員完了す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

-126-

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

患者輸送第六十小隊部隊略歴

患者輸送第六十小隊長　門田快造

年月日	概要
昭一六、七、九	編成下令
八、一	工兵第五連隊補充隊に於て編成完結
八、九	満州派遣の為宇品出発
八、一三	大連上陸
自 八、二四 至 十、七	奉天に於て外国鎮成
十、九	広東派遣の為大連出発
十、一五	広東省黄埔上陸
自 十、一五 至 一七、三、十	広東東山に於て広東附近の警備
三、十一	転進の為黄埔出発
四、十一	緬甸国「ラングーン」上陸
自 四、十一 至 六、十	北部緬甸作戦参加、人員損耗なし

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
自昭一七、六、二 至一八、九末	残敵掃蕩並に警備、占領地確保並に対空戦闘、緬甸防衛並に次期作戦準備に参加、人員損耗なし
七、二〇	補充交代員兵十七名部隊到着
八、三	内地帰還の為下士官兵九名「マンダレー」出発
八、三	補充交代員として兵九名部隊到着
自十、一 至一九、四、二八	「ウ」号作戦参加 下士官兵戦死二 戦病死一
自四、二九 至七、五	八号及「ウ」号作戦参加 人員損耗なし
自七、六 至十、五	断作戦第一期及次期態勢移行の為の作戦に参加 下士官兵戦死三
七、一五	補充交代員将校一、下士二、兵十九名部隊追及昭和十九年三月十日泰緬国境通過後将校一、下士官兵二部隊追及中戦死
自十、六 至十二、三	断作戦第二期に参加 兵一名戦病死
自三、三 至二〇、三、三	断作戦第三期に参加 下士官一名戦病死

2136

自昭二〇、三、三
至　五、三　「シャン」州及「マンダレー」沿戦方面克作戦に参加人員損耗なし

自　五、四
至　八、五　「シッタン」作戦に参加　将校一名戦病死　兵二名戦死

八、五　緬甸国「マルタバン」にて停戦

自　八、六
至二一　六、八　緬甸残留作業隊として緬甸国「タトン」「パヤジー」「メイミョウ」「ラングーン」に在りて連合軍労務に従事

六、二九　日本船熊野丸にて緬甸国「ラングーン」出帆

七、四　宇品上陸

七、五　復員完結

一、歴代部隊長一名

／　少佐　門田快造

一、部隊事情精通者

住所　山口県宇部市大字沖宇部五百六拾の弐

陸軍主計准尉　黒田正行

山口県都濃郡米川村大字下谷千五百参拾五

陸軍曹長　藤井富次

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

架橋材料第二十二中隊略歴

中隊長 陸軍少佐 深坂俊太郎

戦斗経過の概要

昭和一八年一月　江末中隊は「プローム」附近に在りて同地附近の渡河作業並自動車輸送に任じありしが同年九月以降主力を以て「マンダレイ」築地附近の水陸連接確保に任じ一ケ小隊を以て第一八師団に配属し「フーコン」地区作戦に参加せしめ更に一ケ小隊を以て第三十一師団に配属し「ランドーレ」―「ピンポン」間軍需品の集積輸送に任じあり、「
当時第十五軍は「インパール」作戦の為「ミイトキーナ」「モガウン」
ウントウ」「カレワ」「ガンコウ」「ペコック」等の各師団後方要地に対し師団三ケ月分の糧秣集積を企図せるも敵の連日に亘る我集積要地及後方幹線に対する空爆は熾烈にして僅かに各師団に対する常続補給程度にできずがため中隊は自動車輸の全力を挙げて陸路輸送に任ず。昭十九年一月以降中隊は第三十一師団に配属せられ全兵力「ピンポン」集結し爾後「チンドウィン」河渡河作戦の為の舟艇の整備並渡河訓を実施しつつ全力を挙げて「ピンポン」―「コンタン」間の自動車輸送に任ず。一月二十五日中隊は更に第五工兵司令部に配属せられ第十五軍渡河作業隊の編組に入り依然第三十一師団の軍需品の輸送を続行しつつ渡河準備の完璧を期す。

当時第三十一師団及第十五師団方面には軍の予期に反し糧秣の常続補給さへ逼迫せる状況にて三月十五日の作戦発起を控へ携帯口糧すら完全定量携行し得ざる状況にて中隊は不眠不休輸送に任じ一部車両を以て渡河器材を渡河地点へ推進す。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

前期の如く才三十一師団及才十五師団の作戦準備の意の如くならざる軍全般の作戦指導の関係上ヘオ三十三師団は三月八日「カレワ」－－－－－－に於て」攻撃前進を開始せる－－－－－－－－

渡河地附近の砂地にて渡河器材の遮蔽地なく敵機よりの器材の遮蔽困難なりし処折畳舟及鉄舟は昼間水中に没入し門橋材料は砂中に埋没す「マウンカン」下流に於て一部敵監視部隊よりの抵抗ありたる外何等の抵抗なく才一夜に於ける渡河に成功す。

翌十六日末明よりの敵機の攻撃熾烈にして渡河点附近及待機位置附近に対し数回に亘り、銃爆撃を反復す「マウンカン」「コーヤ」正面の渡河は三夜にして終了し中隊は更に「タウンダツー」下航し才十五師団の渡河に任ず。

才三十一師団及才十五師団の渡河完了に伴い中隊は一ケ小隊を以て「タウンダット」に於ける水陸連接作業に任せしめ舟艇の主力を以て「マニワ」に下航爾後同地附近の渡河並に水路輸送に任ず、別に自動車輌（約一五〇）を以て依然才三十一師団及才十五師団後方の輸送を続行す。

作戦の推移並中隊の行動

五月初旬以来印緬国境地帯に早くも雨期到来し軍の陸路補給極度に逼迫すはや中隊は更に「マニワ」より「チンドウィン」河を上航し「シターン」に至り「トンヘ」「タワン」「ダット」「シターン」間の水路輸送に任ず、六月初旬以降軍は後方機動を開始すはや中隊先才三十一師団及才十五師団に対する糧秣の輸送患者の後送に任ず敵機の跳梁、熾烈にして昼間の行動不能のため夜間行動に終始す。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

雨期最盛期に於ける衛生的悪条件と給養の不良（高定量）に依り中隊の約六%は悪質「マラリヤ」及「アミバー」性赤痢に犯され中隊の任務達成に至大の困難を生じたるも中隊は風百の悪条件を克服し任務の達成に努む。

九月初旬を以て第三十一師団及第十五師団の転進輸送を完了せる。

中隊は更に第三十三師団方面の補給逼迫に伴い「ミック」河に転進し「カレワ」－「ガレミョウ」間の水路輸送に任じ克り同兵団の後方機動の危機を克服せり。

右、「ウ」号作戦以来の中隊の行動に関し第十五軍司令官より感状を授与

二、教訓となるべき事項

1、印緬国境に於ける兵用地誌の研究不充分の為特に雨期に於ける交通路水路の激変に対する補給手段に至大の欠陥ありたり

2、国境地帯に於ける雨期の補給は陸路補給は不能にして水路及空路に依るの外なく今次作戦の成否も一に、補給に在り補給戦の成敗で空中補給の微力に在置　断言し得ず

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百二十一兵站病院初隊略歴

第百二十一兵站病院長　蓁原浦美

年月日	概要
昭一七、十、十一	編成完結（北海道旭川）
一八、一、三	旭川出発
三、一	宇品港出帆
四、十一	緬甸国「ラングーン」上陸 爾後　主力は「トングー」に在りて開設準備をなすと共に一部を以て「トングー」周辺の患者を収療す。
自五、六 至一八、十一、一	「ラシオ」に本院開設 之と前後して「ホーポン」「モニワ」「メークテイワ」に分を「ナバ」に全を開設す　此の間「ラシオ」本院に於て戦死兵一　戦病死下士官一「モニワ」全に於て戦病死兵一「カーサ」分て戦病死下士官一　兵一を出す
五、五	部隊長交代
自三、五 至二〇、一、二〇	明妙に本院を開設 「ラシオ」分院「マングレー」に分「シポー」「サガイン」蛇町に夫々全を開設す。此の間明妙本院に於て戦病死六（将校一　下士官一　兵三　日赤看

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二十、一、二十以降	一）「ラシオ」分院に於て戦死将校一　腕町仝に於て戦病死兵一　武兵団に派遣せる臨時救護班員中より戦病死兵二を出し尚「マンダレー」に仝「サガイン」仝要員二にして本隊復帰後戦病死せるもの将校二　下士官二を出す 主力は明妙に残留病棟を残して本院を閉鎖「シポー」附近に在りて専ら次期開設準備す。これより先「シポー」には分院と仝を「ライカ」には仝を開設しありあり
自二、六 至四、六	「ラシオ」よりの復帰人員を伴い「ライカ」に本院を開設す
四、六以降	主力は次期病院開設の為行動を開始す これより先「ヒイレム」に分院を開設しあり　「ロイカ」に河畔病院を開設 「タウンキー」　「ロイカウ」
自五、五 至五、三	「ウエダウン」に本院を開設
五、三以降	主力は泰国へ転進の為行動を開始一時鈴鹿村へ「チョペニー」東方四十二哩地点）に待機す。一方緬甸国「チマピュ」――泰国「クンユアム」間に「チマピュ」分院並第九仝を開設更に「ケンユアム」に仝を開設す。
七、八	主力泰緬甸国境を通過

4314

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二〇、七、十	「クンユアム」到着 爾後同地にありて次期開設準備をなすと共に「ペンキヤオ」「メナチヨン」「メーヴェン」に各「パッカリ」に各を開設更に各間に一ヶ所及至二ヶ所宛の連絡所を開設す　此の間鈴鹿村第五分へ緬甸国「チヨパン」東方四十粁）に於て戦病死下士官一　兵三　「クンエアム」分に於て戦病死兵一を出す
八、一四	終戦詔書を奉戴す
八、二〇	部隊は「ランパン」に於て病院を開設すへくし梯団に分れて「クンユアム」を出発一時「パンカツ」集結の上待機す
自 十、二〇 至 二一、一、三	「ロンキヨウ」に於て本院を開設すると同時に部隊員の集結を完了す　戦病死兵二を出す。
一、三 以降	部隊は「ロンキヨウ」に分を残置して本院を閉鎖患者の後送を行いつつ漸次「ナコンチヨークク」地区に集結す
自 二、二〇 至 四、一四	「ナコンチヨークク」西端穂村にて病院を開設
四、二一	「ナコンチヨークク」東高千穂村に於て第百二十四兵站病院の業務を引継き患者の収療に任す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二一、五、七	「ナコンチヨーク」赤坂村に於て第三十七師団野戦病院の業務を引継ぎ分院を開設す
五、二	先発要員を以て「ノンホイ」に本院を開設東高千穂村本院を分院とす
五、三	「ノンホイ」本院に患者を送致し東高千穂村分院を閉鎖す
六、十	「ノンホイ」本院に患者を送致し赤坂村分院を閉鎖す
六、三	「ノンホイ」本院を閉鎖、還送患者を護送し盤谷に移転す
六、三	輸送船「治晴丸」に乗船職員其の他三百名、還送患者八百名
六、二十	浦賀に入港検疫の為停泊す　今次船舶中還送患者一名死亡す
七、五	上陸（横賀港）
七、七	復員完結

一、歴代部隊長名

1、軍医少佐　岩本政雄

2、軍医中佐　藤原浦美

一、部隊事情精通者

福島縣福岡市大浜町二丁目三八
陸軍軍医少佐　酒井亭三

京都市佐京区聖護院山王町二八ノ五
陸軍軍医大尉　坂田幽

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

3の ビルマ。

部隊復員状況調書

昭和二十一年七月　日

広島上陸地支局

所属部隊及位置	渡河材料第十三中隊
調製官官代名	陸軍大尉　半田　功

一、部隊復員業務進捗状況

緬甸方面軍司令部指示に基き昭和二十一年四月二十九日復員業務を開始六月五日方面軍先発将校、左記書類を作成し各一部を内地に携行委嘱せり

一、復員者連名簿　一、生死不明者連名簿

一、終戦業務処理責任者住所報告　一、着装被服現況表

一、本人並部隊未伝達事項　一、還転送患者連名簿

主力は六月二十五日モールメン出帆七月十二日宇品港上陸宇品上陸地支局の指示と準備せる書類に相当の差異あるため第三項残務整理員を以て残務整理に任じ七月十二日下士官二名復員完結（入院）七月十三日将校以下一三四名を復員茲に入院患者四一名他隊勤務四名　行方不明者一五を除き全員復員完告

二、人員内地帰還状況

編成時（昭和十六、七、二一）一三〇名爾后補充及転属者九五名を加へて

中隊在籍総人数　三二五名なり

イ、内地帰還　東部第四四部隊其他転属内地入院　七七名

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ロ、死認者　　　　　　　　　　　　　　　　　　四四名

ハ、転属者　　第三十三軍司令部四名第三三師団衛生隊六名　　一〇名

ニ、入院者（外地）　内一名は転進間モールメン附近三十不明となる当時病弱なるためモールメンに入院せると判断せるもの　　四一名

ホ、行方不明者　　　　　　　　　　　　　　　　一五名

ヘ、他隊勤務者　第三十三軍司令部経理部二名　盤谷ビルマ方面軍連絡所勤務一名　遺骨牢斂として内地帰還、既に復員せると認めるもの一名　　四名

（ハ・ニ・ホ・ヘ核当者は若干復員し居ると判断さる）

ト、主力復員　七月十二日　二名
　　　　　　　七月十三日　二四名　　一三四名
　　　　　　　七月十七日　六名　　　三二五名
　　　　　　　七月三一日　一名

三、残務整理残置人員　八名

陸軍大尉　半田功　　　陸軍軍曹　高山正治
仝　　　　深津順一　　仝　　　　新堀五郎
仝　　　　秋田左三郎　陸軍伍長　田代三良

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

陸軍曹長　岩下修寿

陸軍伍長　石上清

四、戦犯容疑者として残置人員

なし

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立輜重兵第二聯隊
戦死資料調査表

年月日	概要
固有部隊名	独立輜重兵第二聯隊
通称号	森第五三七二部隊
陸軍少尉（部隊長代理）	武士俣勲
位置	（編成地）中華民国
[illegible]	兵出身 愛媛県 香川県 徳島県 高知県 広島県 山口県 島根県 福岡県 佐賀県 長崎県 熊本県 宮崎県 大分県 鹿児島県
昭五、三、五	中華民国湖北省武昌に於て編成完結
三、五	陸軍中佐 祈田義一 独立輜重兵第二聯隊長に被補
自 三、五 至七、十、一四	中華民国湖北省当陽県宣昌河容鎮鍾鮮県旧口鎮に在りて支那事変並大東亜戦役支那方面戦役に従事
自 十、一四 至 十、一四	「ビスマルク」諸島「ニューブリテン」島へ転進の為の輸送業務
自八、八、一六 至 九、一	「ビスマルク」諸島「ニューブリテン」島「ココポ」に在りて
自 九、一 至 十、六	南太平洋方面に於ける「ココポ」地区兵站業務並警備に従事
自 十、七 至 十二、二五	南西方面へ転進のため輸送業務
十二、二六	「シンガポール」に在りて、「ウ」号作戦参加のため準備
自九、二、二六 至 十二、二五	「ウ」号作戦参加のため「シンガポール」出発のため準備 「ウ」号作戦及次期作戦移行のための作戦並盤作戦に参加、其の間 「ビルマ」国「マンダレー」—印度「サッムル」州「カラサムル」— 同「ウクルル」—同「ミネル」—「ビルマ国」「ヒンレブー」—同「マンダレー」間に於て行動

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭元、一一、二七
独立輜重兵第二聯隊長陸軍大佐新田義一第一五野戦輸送指令官被補第一五野戦輸送司令部高級部員 陸軍中佐服部一被補独立輜重兵第二聯隊長

自 二、六
至二〇、八、一四
断作戦二・三・四期及完作戦に参加 其の間緬甸国北「シャン」州「モニナイ」州「カレンテ」州 南シャン州に於て行動

五、二五
独立輜重兵第二聯隊長 陸軍中佐服部一被補 緬甸国方面軍自動車廠長第二輸送司令部高級部員陸軍中佐乾福平被補独立輜重兵第二聯隊長

八、一五
終戦

十、
シャム国「ロンキョウ」集結
「ロンキョウ」出発

三、元
「シャム」国「チコンナヨーク」集結

二一、五、六
「ナコンナヨーク」出発

六、四
「バンコック」に於て乗船

自元、五、一四
至 八、三
浙贛作戦
南昌――新陽――高橋市――東来橋――永仁――
宜黄――建昌――金谿――臨川――東郷――鷹沢
横峯――南昌間第六師団及第四十師団に対する輸 一六名

湖北省武昌県武昌

沖縄県 兵庫県 岡山県 大阪府 静岡県 山梨県 長野県 神奈川県 埼玉県 東京都 千葉県 宮城県 新潟県 福井県 岩手県 秋田県 青森県

良好 良好

4の内 ビルマ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

其の外　ビルマ。

年月日	概要			
	補給業務に従事す			
自一七、二、二七 至一八、八、三一	南太平洋戦 「ビスマルク」諸島「ニューブリテン」島「ココポ」に在りて「ココポ」地区兵站業務「ニューブリテン」島北部地方に対する輸送補給及警備に任す	なし	良好	良好
自一九、三、二六 至、一二、二七	「ウ」号作戦及次期作戦移行への為の作戦並盤作戦 緬甸国「マンダレー」「インド」「アッサム」州「カラサム」―同「ウクルー」―同「フミネ」　緬甸国「マンダレー」間に在りて第二十四師団及第六師団竹原支隊に対する輸送並に補給に任す	五三三名	不良	不良
自、二、三一 至二〇、八、一四	断作戦第二・三・四期作戦 緬甸国北部「シャン」州「モンナイ」州「カレンギー」州　南「シャン」州に在りて第三十二軍隷・指揮下部隊に対する輸送補給及同州警備に任す	一三名	不良	不良

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	終戦より帰還までの行動
	終戦後シャム国「チェンマイ」集結のため緬甸国南「シャン」州「モウチレ」―「ケマピユー」―「メセマテ」―「チョンペニ」間 患者の後送並糧秣の輸送に任しつゝ転進
昭二〇、十、	シャム国「ロンキョウ」に聯隊本部一部及三ケ中隊集結完了す 聯隊長以下一三〇名（本部主力及一ケ中隊）は「クンヤム」地区業務処理のため「クンヤム」に残留爾後「トングー」方面に転進するも連絡不能
十、一六	「ロンキョール」出発「ラーヘン」―「サコンサワン」―「ノ、ホイ」経て
十、一九	盤谷北方「ナコンナヨーク」西端村に集結
二一、五、八	同地出発
六、二	盤谷新生キャンプ到着
六、四	盤谷に於て乗船
六、五	出帆
六、一九	浦賀着
六、二五	上陸
六、二七	横須賀援護所に於て仮復員

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

5の内 ビルマ

年月日	概要
	指揮隷属関係及び其の変遷
自一五、三、一五 至一七、十、一四	第一野戦輸送司令部隷下
自 十、一五 至 二、二八	第十七軍隷下
自 三、一 至一八、八、二三	第八方面軍隷下
自 九、一 至 十、一六	南方軍直轄
自 十、一七 至一九、一、一	第十五軍隷下
自 一、 至 四、二八	第二野戦輸送司令部隷下
自 四、二九 至二〇、六、二七	第三十三軍隷下

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

期間	参加せる主要なる作戦（戦斗）	死傷損耗	給養	衛生
自昭五、四、元 至 七、三	宜昌作戦 部隊は第三師団及第十一野戦輸送司令部に配属せしめられ 信陽―泌陽―棗陽―当陽―河溶鎮に在りて被属部隊に対する輸送及び補給に任す（第十一軍司令官より感状を授与さる）	九名	良好	良好
自天、一、七 至天、三、六	予南作戦 武昌―信陽―汝南―信陽間第四十師団に対する輸送補給業務に従事す	なし	良好	良好
自 二、 至 三、	漢水作戦 独立混成第十八旅団に対する輸送補給に任す	なし	良好	良好
自 八、 至 十、	第一次長沙の作戦 旧口鎮―兵州―金井―兵州間第四十師団に対する輸送 補給に任す	五名	良好	良好
自 八、一 至 八、四	新北作戦 沙市対岸に於ける戦斗に参加（第十一野戦輸送司令部官賞詞を授与さる）	一四名	良好	良好

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
自 三、八 至	才二次長沙作戦 岳州──長沙間──岳州間才四十師団に対する輸送 補給業務に従事す 三名 良好 良好

2154

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	摘要	摘要
	其の部隊経歴中特異と認められたる 聯隊長大佐は本部主力及一ケ中隊（約三〇名）及第参編第四七号による転入者（約三七〇名）を指揮し「クンヤム」に残留爾後「トングーレ」方面に転進す 緬甸国方面軍直轄となりたる本部主力及一ケ中隊の行動	本戦資料は書類焼却せるため関係者の記憶により記入 部隊「ラングーン」乗船時、陸軍曹長以山良人以下二三名は「ラングーン」シンガラドン中央病院に入院中なるため残留さるあり
昭二〇、十、以降	十一月まで、クイム地区の患者後送及軍需維持	
二、二七	緬甸方面軍の直轄たらしめらる	
二一、二、六	泰国「クンヤム」出発　「ケマピュール」を経て	
二、二三	「トングーレ」収容所に入所	
二、	中旬以降	
六、八	聯合軍労務作業実施	
六、九	「ラングーン」集結	
七、十	「ラングーン」にて乗船	
七、二	出帆	
七、二六	宇品港着	
七、二七	上陸　宇品援護局にて仮復員	

2155

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第一〇二野戦道路隊部隊略歴

戦史資料　昭和二十一年六月七日

第百二野戦道路隊　部隊長　雨宮甲三郎

年月日	概要	指揮系属関係及其変遷
昭六、九、三	編成下令	
	陸軍中佐　伊久間吉勝　第百二野戦道路隊長に補せらる。	
五	編成完結	
二五	門司港出帆	
十、五	昭南港上陸	
十一、一	昭南出発	
三	「マライ」泰国境通過	
十二	泰緬甸国境通過	
自 十二、四 至 一九 七、五	ウ号作戦に参加、	
十二、十二	「インドウ」着	
自 三、一五 至 四、一	九号作戦に参加	
五、二〇	印緬国境通過、同日より五月十九日迄印度国「アッサム」州に於て同作戦に参加	
七、二〇	印緬国境通過	

～449～

2156

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

自 七、六	次期態勢移行の為作戦に参加
至 九、十三	
十、三	陸軍中佐、伊久間吉勝病気のため部隊長免せらる。
	陸軍少佐、雨宮甲三郎、第百二野戦道路隊長に補せらる。
自 十二、十三	断作戦第三期に参加
至 二〇、二、二〇	
自 二、三	断作戦第四期に参加
至 四、九	
自 四、十	完作戦に参加
至 八、十四	
七、二〇	賞詞授与せらる（第五十六師団長）
九、二五	賞詞授与せらる（第五十六師団長）
九、二〇	緬泰国境通過
十、	「チェンマイ」集結
十二、二五	「ナコンナヨーク」集結
昭二一、三、五	第十八方面軍参編第一三七号に依り第九師団第一架橋材料中隊中隊長陸軍大尉 辻正以下四三三名転入す
六、五	バンコック出帆

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要	摘要
昭二、六、	鹿児島上陸	
	復員完結	
八、九、五	編成完結、大本営直轄。	
二六	緬甸方面軍隷下に入る。	
十二、四	第一五軍の指揮下に入る。	
十二	第三十一師団の指揮に入る。	
十三	第五二兵司令部の指揮下に入る。	
十九、一、二十	第十五軍の隷下に入る。	
二、一	第二野戦輸送司令部の指揮下に入る。	
四、二九	第三十三軍の隷下に入り依然 第十五軍の指揮下に在り。	
十二、二二	第十五軍の指揮を解かる。	
二三	第三十三軍に復帰。	
二〇、六、八	第五十六師団の指揮下に入る。	
七、	第十五軍の指揮下に入る。	
二一、六、五	第十五軍の指揮を脱す。	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要	摘要
	ウ号作戦（含九号作戦） 「インドウ」附近の敵空挺部隊討伐戦（九号作戦）に参加、（下士官一名、戦傷死、兵二名戦傷入院）部隊主力は、九号作戦に参加後 第三中隊を残置、印度方面に転進を開始す。 「バンモーク」―「ピンホン」―「四哩道標」―「ヘイカン」―「マウンカン」―「チンドウイン」河―「ペピン」間交通及び渡河作業に従事、空襲のため主として、夜間行動、並に昼間強行作業を実施す。（下士官兵二名戦病死） 印度領に転進 「タナン」―「フミネ」―「カムジョン」―「モーク」間の交通作業に従事、雨季最中と雖も敵機の跳梁頻繁にして夜間行動を余儀なくせらる。 又昼間の強行作業 従事せり、	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概	摘要
昭一九・七・一〇	緬甸に転進を開始す（下士官兵二三名戦病死） 次期態勢移行のための作戦 印度領「フミネー」―緬甸「タナン」―「トンヘイ」―「シッタン」―「チンドウイン」河―「ヤンヘイ」―「ワヤゴン」―「ピンレーブ」間の交通作業及後方機動雨期の最盛期にして各河川は増水氾濫し主要兵站線路は文字通り泥濘膝を没し軍需品の輸送は全く杜絶、連日昼夜間を徹し交通路の補修に従事せり、兵站線全域に亘り、敵の来襲は頻繁なりき戦死（将校一名、下士官三四名）戦病死（将校四名、下士官兵七九名）入院中所在不明（将校一名、下士官兵六名） 盤作戦 「レウ」―「ピンレーブ」間交通作業及「コーリン」―「カンバル」間道路構築作業並に「メザ」渡河作業に従事、此の間も敵機の来襲頻繁にして主要輸送の鉄路は連日連夜爆撃を受け、特に渡河点附近猛烈を極む（戦死下士官兵三名）戦病死（下士官兵五名）入院中所在不	参加せる主要なる作戦（戦斗）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

明（兵一名）

断作戦（第三期）

「シュエボ」―「マンダレ」集結及「シボウ」集結、「シボウ」―「ナムラン」―「マンリー」―「トンロー」―「モンクン」―「カンパイピン」―「ライカ」間交通作業に従事、此の間敵機の来襲猛にして各橋梁及腹道に爆弾を投下兵站線の破壊を企図、昼夜交通路確保作業を実施す。戦死（下士官兵一二名）　戦病死（下士官兵一〇名）

断作戦（第四期）

「トンロー」―「カンパイピン」―「ライカ」―「ロイレム」―「ホーポン」―「ケマピュ」間交通作業に従事、此の間相当の開濶地多く行動は、夜間の外なく主要橋梁及山腹道は猛爆を受け、戦死（下士官兵三名）　戦病死（下士官兵一名）

克作戦（第一期）

「ライカ」―「ロイレム」―「ホーポン」―「ロイカワ」―「ケマピュ」間の交通作業に従事、此の間時に

死傷損耗

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	平坦開闊地多く行動は、夜間行動のみに限られ各橋梁は、殆ど爆撃せられしも鋭意交通を確保す。戦病死（兵一名）
	克作戦（第二期）
	「ホーポンレ」―「ロイコウレ」―「ケマピウレ」間の交通作業及「サルウインレ河渡河作業に従事、緬甸雨期漸く酣にして各河川は、増水し特に「サルウインレ河は一〇米の増水にて、河水氾濫し燃料なき折柄、各部隊の「サルウインレ河左岸への転進急を要し猛雨中寸暇の余裕なく連日連夜渡河設備作業に専念見事数回の失敗を克服して大河川の渡河設備を完成す。敵機の来襲は依然頻繁にして各橋梁山復道、部隊集結地を爆撃せり、戦死（兵一名）戦病死（兵一名）
	終戦時「ビルマ」国「シャンレ州」「サルウインレ河畔」「ケマピュレ」に於て、滑潤渡に依る「サルウインレ河渡河作業に従事しあり。
	渡河設備完備
十月下旬	転進兵団（竜兵団）の一部を渡河せしめたる後「サルウインレ河渡河、道路橋梁、補修をなしつつ、泰緬国境を越へ「チェンマイレ」に徒歩行軍を以て転進す（十月下旬）
	「チェンマイレ」に、部隊集結後約一ヶ月駐留す。

クの外　ビルマ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要	摘要
	十一月下旬　「チェンマイ」より「ランパン」を経て「ナコンサワン」迄概ね「メナム」河に沿つて、陸路徒歩行軍 「ナコンサワン」より、「ノンホイ」まで、列車輸送「ノンホイ」より「ナコンナヨーク」に十二月下旬　集結地迄徒歩行軍	
	「ナコンナヨーク」集結地に約五ヵ月間駐留	
昭二一、五、末	帰還のため「ナコンナヨーク」発「プラチンブリー」迄徒歩行軍、「プラチンブリー」—「バンコック」間列車輸送	
六、五	「バンコック」にて乗船出発	
六、二六	鹿児島港上陸、復員完結　此の間部隊の一部は「バンコック」にて渡河、列車の積載卸下作業従事	
	ウ号作戦	
	給養	給養 衛生
自元、三、 至　七、四	ウ号作戦中期以降は兵站線を空挺部隊に遮断され輸送困難となり、又作戦地特有の猛雨期に逢着し、自動車輸送全く杜絶したるため、部隊特有の塩、或は「ジャングル」野菜を採集して副食とす。加給品の支給及被服の交換なし主食	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
自 五、一四 至 六、一四	一日概ネ五分の一定量 衛生 敵機連日連夜執拗に来襲（一日飛来回数平均四十五回程度）す。為に既設建物及昼間の行動は全く不可能にして、加えるに「ビルマ」特有の猛雨に遭遇す。従って、天幕露営及宿営は、良く繁茂せる林間、谷間を余儀なくせられ、糧食の補給は、制限せられ為に疲労甚大、栄養不足、湿潤高温、「マラリア」「アメーバ」性赤痢続出衛生材料皆無の状況にして、前記の如き損耗を生ぜり総人員の九〇％罹病す。 次期態勢移行の為の作戦 給養 次期態勢移行の作戦間主食概ネ五分の一定量獲得、副食塩及「ジャングル」野菜、甘味品なし、被服の交換支給なきため個人装具は夏衣袴及、水筒飯盒、雑嚢、巻脚絆、編上靴（廃品程度とし一部の者は素足）天幕となる 衛生 敵機の跳梁は依然頻繁にして、行動は殆ど夜間のみに制肘せられたる状況下に於て、交通作業及機動間は連日の猛雨中を長途三百五十粁に亘り道路

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

は極度に泥濘化して膝を没し辛じて通過の状態のため、糧食の補給は全く杜絶し連日連夜猛雨に曝される。身体は終始冷寒を覚え睡眠は妨げられ薬物の補給皆無のため「アメーバ性」赤痢、「マラリア」脚気続出し前記の如く損耗を生ぜり。

盤作戦

給養

盤作戦間主食概ね三分の二定量獲得す。副食、塩、生野菜、肉、甘味品、砂糖の交付を受く、被服の支給或は交換大部分の者実施す。

衛生

土民に於て、天然痘及「コレラ」等、発生したる状況なるも部隊に於ては予防接種等実施せる為、患者なし、前記作戦間に於て、体力損耗により、若干の入院患者あり。

壱作戦（第一期）

給養

主食、概ね一日三分の二獲得、副食、塩、生野菜、肉、甘味品（砂糖）の交付を受く。

衛生

断作戦第三、四期に同じ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日　概　事

克作戦（第二期）

給養　主食、概不一日二分の一定量、獲得、副食、塩、「ジャングル」野菜、甘味品なし、被服支給交換なし

衛生　敵機械化部隊及敵機の執拗なる来襲により、兵站線は寸断され且又補給諸廠等の被害を蒙り又輸送用燃料は枯渇し、雨期による輸送力の減退等により糧秣の補給不充分なりき、又宿営施設も防空を顧慮し衛生上極めて悪しき陰惨なる箇所を選ぶの止なきため依然「マラリア」続出せり、又大増水の「サルウィン」河渡河設備のため不眠不休の作業に因り、罹病数は相当多数になりたり、然しながら薬物の補給は概不順調にして大なる損耗を免るる事を得たり。

終戦後

給養　行軍間主食一日概不三分の二定量、副食、塩、生野菜のみとす。駐留間主食一日三分の一定量、副食、塩、生野菜、肉、砂糖（若干）

衛生　雨期末期より長途一千粁に亘る行軍、疲労及栄養不良等により、部隊総人員の五〇％「マラリア」に罹患せり、薬物の補給は概不順調なりき

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp